

# 會務報告

第29卷第6號 昭和18年6月

## 役員會

### 第4回常議員會 (昭. 18. 4. 19.)

出席者: 黒河内會長, 内海副會長, 瀧淵常議員外  
11名, 那波前會長外 8名, 中村書記長,  
小野寺庶務主任外 2名

#### 議事

1. 稻留勝彦君の決戦下の土木に就て講話あり, 引續き討議を行ふ

### 第5回常議員會 (昭. 18. 4. 26.)

出席者: 黒河内會長, 内海副會長, 江藤常議員外  
10名, 中村書記長, 小野寺庶務主任 外  
2名

#### 報告

1. 關西支部座談會記事
2. 中國四國支部役員會議事
3. 日本工學會社員總會議事

#### 議事

1. 大東亞建設調査委員會委員に岡部二郎君, 藤芳義男君を依囑
2. 正會員星埜和君, 出水義治君, 野口章祥君, 奥田定一郎君の一時納付會費を基金に編入
3. 昭和18年支部長會議は延期
4. 入退會を別記の通り承認

### 常議員協議會 (昭. 18. 5. 10.)

出席者: 黒河内會長, 鈴木副會長, 瀧淵常議員外  
15名, 藤森謙一君外 3名, 中村書記長,  
小野寺庶務主任外 2名

#### 協議事項

1. 戦時下に於て土木學會は何を爲すべきかに就て常議員外の藤森, 堀(武), 好井, 渡邊(寅)等の諸君よりも意見を述べられ討議せり

## 總務部記事

### 第35回對爆調査委員會 (昭. 18. 4. 22.)

出席者: 釘宮委員長, 青木委員外 8名, 小野寺庶  
務主任

#### 協議事項

1. 牧野委員提出の資料 4-1 防空法規の紹介取扱

方法に就き審議の結果, 次回に法規全文と對照検討することとせり

2. 田中委員より 2-7-1 毒瓦斯, 2-7-5 瓦斯消毒, 河上委員より 3-3-3 橋梁の爆撃と其對策, 3-3-4 港灣の防空, 資料を提出ありたり

### 第36回對爆調査委員會 (昭. 18. 5. 6.)

出席者: 釘宮委員長, 奥田委員外 5名, 小野寺  
庶務主任

#### 協議事項

1. 牧野委員提出の資料防空法規の紹介方法に就き審議の結果防空法令中, 防空法, 防空法施行令, 防空法施行規則の全文を會誌に登載することに決定

### 第11回建設機械研究委員會報告 (昭. 18. 4. 14.)

出席者: 本間第二部委員長, 内林委員外 9名, 宮  
澤囑託

#### 協議事項

1. 建設機械現存數量調査に關する事項はすべて科學技術審議會に依囑することとせり
2. 飛行場建設關係小委員會は各方面に同性質の委員會が存在するため一時中止することとせり
3. 建設機械の水準調査方針に就き協議

## 東亞部記事

### 大東亞建設調査委員會 (昭. 18. 4. 16.)

出席者: 安藝委員外 22名, 黒河内會長, 中村書  
記長, 小野寺庶務主任

1. セレベス島水力資源に關し畠山好伸君, 山倉嘉一郎君, 五十子恭三君の講演ありたり

## 編輯部記事

### 第3回會誌編輯委員會 (昭. 18. 5. 5.)

出席者: 福田委員長, 五十嵐, 岡本, 杉戸, 藤森, 星  
野, 本間, 最上各委員, 村上編輯囑託, 鹽  
谷, 鈴木, 梅津, 内村各囑託

1. 第29卷第4號登載原稿謝禮決定
2. 第29卷第7號登載原稿決定
3. 第29卷第4號登載論文の討議依頼先決定
4. 會誌編輯方針の討議

關西支部記事

第2回座談會 (昭. 18. 4. 15.)

出席者: 80名

演題: マライ戦線と土木 正會員 鎌田銈一君

中國四國支部記事

役員會 (昭. 18. 3. 22.)

議 事

- 1. 支部長改選の件
- 2. 昭和 17 年度決算報告の件
- 3. 昭和 18 年度豫算の件
- 4. 昭和 19 年度事業の件
- 5. 新會員勧誘に關する件

役員會 (昭. 18. 4. 19.)

議 事

- 1. 第3回總會開催並に議案決定に關する件
- 2. 講演者斡旋に關する件
- 3. 昭和 19 年度總會開催地決定の件

滿洲土木學會記事

役員異動

新任 會長 本間徳雄君 副會長 坂上丈三郎君

理事 宇木 甫君 常議員 小味淵 肇君

第2回役員會 (康. 10. 3. 27.)

出席者: 本間, 鈴木兩副會長, 大野常議員外 5 名  
廣岡書記長外 2 名

議 事

- 1. 坂田會長辭任に關する件
- 2. 總會開催に關する件
- 3. 會員異動承認

第3回役員會 (康. 10. 3. 27.)

出席者: 本間, 鈴木兩副會長, 大野常議員外 6 名  
廣岡書記長

議 事

- 1. 會長其他詮衡決定の件

日本工學會記事

社員總會 (昭. 18. 3. 20.)

議 事

- 1. 昭和 17 年度收支決算其他の報告に次で昭和 18 年度收支豫算の件を附議

その他記事

土木學會誌第 29 卷第 5 號を發行成規の手續を了し會員に配布せり。

入會及轉格會員

特別會員 (入會)

株式會社義合祥北京支店	太田安次郎	沼崎	寧	沖	鹿藏	3級
株式會社錢高組北京支店	中村元次					

正會員 (入會)

西田	寛	西本	正
----	---	----	---

准會員 (入會)

池田隆典	上田敏治	大池重義	京免豐	作熊高幸	人坂上勘之丞
酒井寛	高木大二郎	館澤謙光	鄭炳南	新村新	初田彌一
山口貞夫	横濱外茂治	木村英敏	久村正明	米持正久	李殿培

學生會員 (入會)

足立道憲	青柳	茂	青柳康夫	秋山鏡介	伊藤正則	石原喜代美
------	----	---	------	------	------	-------

岩橋	忍平	植大	村崎	義欣	視爾	白大	田西	和輝	喜夫	雄夫	内奥	山谷	茂雄	小加	川賀	清松	大柿	植澤	次惠	郎治
金子	保泰	鎌久	田米	貞莊	爾夫	木下	西山	輝省	夫男	夫男	奥木	谷村	雄吉	加菊	賀次	威彌	岸野	澤野	惠弘	治弘
北川	田重	東田	海尻	林四	市郎	栗白	山取	代長	男男	男男	小杉	本中	榮源	齋鈴	藤木	彌男	酒關	井口	武健	郎吉
島關	根野	武田	田尻	英和	正行	田武	取代	安一	吾門	吾門	田谷	中掛	明彰	代谷	田口	男男	高仲	口仲	健久	晃夫
高寺	野田	戸鍋	田浦	弘卓	夫雄	富日	澤野	一孝	三郎	三郎	友昆	掛田	末啓	鳥福	烟卯	太司	椿谷	津元	川長	夫乘
中藤	野後	藤三	本宅	健三	彌補	堀村	野瀬	正一	志章	志章	前元	沙吉	賀信	島福	田津	郎彦	福升	元岡	二一	男雄
松山	永崎	弓削	三川	身三	郎武	吉本	田本	一田	憲博	憲博	米及	川川	忠忠	龜井	井井	雄夫	山渡	邊田	俊一	雄郎
渡藤	邊原	善賢	川古	川義	明明															夫夫

正 會 員 (轉 格)

新澤嘉芽統 堀田丈夫

准 會 員 (轉 格)

岩切欣久 植木 馨 加藤忠郎 新井宗助 緒方 崧 菊田 宏  
 佐久間誠一 松倉秀雄

土 木 學 會 々 員 數

(昭. 18. 4. 26. 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	贊助會員	合 計
5	4623	6552	2105	183	25	13493

正會員 本間雅治君, 正木範二君, 村越三四郎君, 山神斐夫君の訃報に接す  
 本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員 池田房男君, 山城昇一郎君の訃報に接す本會は恭しく哀悼の意を表  
 す

## 寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
  2. 頁數 頁數は圖表を含み本會誌 15 頁(原稿用紙 90 枚)以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
  3. 文體 文體は**文章的口語體**とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
  4. 書體 横書とし、假名は**平假名**、數字は**算用數字**、ローマ字は**文部省制定ローマ字**を使用され度し。數字は特に明瞭に認められ度し。例へば  $n$  と  $u$ ,  $u$  と  $v$ ,  $r$  と  $v$ ,  $a$  と  $\alpha$ ,  $r$  と  $\gamma$ ,  $d$  と  $\delta$ , その他  $C$  と  $c$ ,  $K$  と  $k$ ,  $O$  と  $o$  等頭字と小字とを判然たらしむる事。
  5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあける事。名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。  
例へば  
35 錢(三十五錢), 13.56 圓(十三圓五十六錢), 1~4 時間(一時間乃至四時間),  
88 326 t (八萬八千三百二十六噸), 昭. 14. 1. 1. (昭和十四年一月一日),  
m (米),  $m^3$  (立方米), kg (磅), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
  6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し(本會制定用語は本會發行の土木工學用語集参照)。  
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
  7. 圖表 (1) 圖表は圖-1, 表-1 等と書き圖表題を記すこと。  
(2) 複雑なる表の如きは成るべく**グラフ**にて示す事。  
(3) 圖面はその儘縮寫し得る様に **トレーシングペーパー**, **オイルペーパー**, **トレーシングクロス**等とすること。  
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。  
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ(黄色, 赤色の罫は使用せざる事)縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。  
(6) 圖表の文字數、字は特に**大きく書かれ度し**。縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。  
(8) 圖表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
  8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
  9. 其の他 (1) 論說報告は邦文に限る。  
(2) 講演及論說報告には必ず**英文表題及邦文要旨**並に**著者の職名勤務所名**を添附され度し。
- 附記 (1) 論說報告, 彙報, 時報, 抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。  
(2) 講演, 論說報告の各欄に掲載の分には別刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。

## 會 告

### 水 理 公 式 集 豫 約 募 集

從來使用せられつゝある水理公式を檢討整備し、其の使用に當りて適正を期するため、本會内に水理公式調査委員會を設置し、昭和 15 年 7 月以來鋭意調査研究を進めて來たが、漸く成案を得るに至つたので、目下之を編纂し水理公式集として發行準備中である。本公式集は水理公式の使用に當つて、その選擇に或る程度の基準を與へる目的で編纂し、諸公式中で信頼し得るものを掲げ、之に對する解説を附し、又使用困難なものには計算例を附してある。編纂内容は第 1 部河川、第 2 部發電水力、第 3 部上下水、第 4 部港灣の 4 部門に分ち、次頁内容見本の如きものである。

本會々員には印刷實費 1 圓 80 錢にて頒布する。この好機を逸せず豫約御申込を乞ふ。

---

内 容： A 列 6 號 140 頁位  
申込期日： 昭和 18 年 9 月 15 日  
代 價： 1 圓 80 錢（送料を含む）  
配 本： 昭和 18 年 12 月末日

（代價は申込と同時に振替にて送金されたし。振替口座 東京 16828 番）

---

[4.2] 指數公式

$$v = C_1 R^m I^k$$

此の式は  $m, k$  を適當に選んで  $C_1$  が實用上粗度のみの函数で  $R$  及び  $I$  に関係なしとしたもので一つの水路に對しては  $R$  及び  $I$  の如何に係らず  $C_1, m, k$  は同一の値を用ひ得るを以て、一つの水路又は同種同形の水路に於て水位、水面勾配の異なる多くの場合の平均流速を求むるのに好都合である。今日の狀態では實驗より得たる  $C_1, m, k$  の値は斷面の形及び潤邊の性質の僅かの差異に不連続的に變化するから、一つの水路の値より類似の水路の値を推測する事は出來ない。従つて主に管水路又は一定形の暗渠等に用ひられる。

此の型式のものには次の如きものがある。

(1) マンニング (Manning) 公式 (英 1889)

$$v = \frac{1}{n_1} R^{2/3} I^{1/2}$$

茲に  $n_1$ : クッターの  $n$  と同じものを用ひる。

(2) フォルヒハイマー (Forchheimer) 公式 (奥 1923)

$$v = \frac{1}{n_1} R^{0.7} I^{0.5}$$

茲に  $n_1$ : クッターの  $n$  と同じものを用ひる。

—以下略—

[2.2] 對岸距離と最大波高

スチーヴンスン (Stevenson) 公式

$$2h = 0.75 + \frac{1}{3} \sqrt{F} - \frac{1}{4} \sqrt{F} \dots \dots \dots (27)$$

設計に使用する波の波高は其の場所に於ける觀測に依るのが確實であり、又波による破壊より高さを推定する事もその一方法と考へられる。併し之等に依り資料の得がたき場合には其の場所の最大對岸距離から最大波高を推定する。之が計算の爲めにはスチーヴンスン公式がある。

スチーヴンスンは 1850 年スコットランドの小さな入江及び Firth of Forth 及び Moray Firth に於て觀測した資料より

$$2h = k \sqrt{F} \dots \dots \dots (\alpha)$$

なる事を發見して之を 1852 年 Edin. Phil. Journal に發表した。其の後彼自身の 1850~1852 年の觀測及び他の人々の觀測値をも合はせて上式の係數  $k$  を、呎、呎單位にて 1.5 と定めた。併しその後對岸距離の比較的短い場所に於ては、強風の場合には上式より計算されたる値よりもつと大きな波高の生ずる事實により、上式を改良して比較的短い對岸距離に對して、呎、呎單位にて 1.5 と定めた。

—以下略—

# 既刊會誌殘部内譯

(昭. 18. 3. 現在)

(\* は殘部有るものを示す)

卷 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額 (1 部)
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	—	*	*	—	—	*	—	1.00
18	—	—	*	—	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	—	*	*	*	—	*	1.00
20	—	—	*	—	—	—	—	*	—	*	—	*	1.00
21	—	—	*	*	—	—	*	—	*	—	*	*	1.00
22	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	—	—	—	*	*	*	—	*	1.00
24	*	*	*	*	—	*	*	*	*	*	—	—	1.00
25	—	*	—	—	—	—	*	—	*	*	—	—	1.00
26	—	*	—	*	—	—	—	*	—	*	*	—	1.00
27	—	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	1.00
28	—	—	—	—	—	—	—	*	*	*	*	—	1.00
29	*	*	—	—	—	—	—	—	*	*	*	—	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)													1.30
大正十二年關東大地震震害調査報告書 (1, 2, 3)													18.00
鐵筋コンクリート標準示方書													1.20
同上解説													
土木工學論文抄録第一輯													3.50
土木工學論文抄録第二輯													5.00
土木學會誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)													0.50
土木工學用語彙													2.50

上記殘部會誌其の他の刊行物御希望の場合は所定金額を振替口座東京 16828 番にお拂込み下さい。